

## ロスランスキーさんとカミンズさんの善通寺・向島訪問

### 10月17日(木) 善通寺捕虜収容所跡

訪問者：Marvin A. Roslansky(91)：善通寺で捕虜(1942年1月～1945年9月)

Josephine Roslansky(92)：妻(同上)

Lora Cummins(87)：Ferron E. Cummins(向島で捕虜、1944年9月～1945年9月、  
帰国後1990年死亡)の妻

Glenda E. Sutton：娘(同上)

同行者：外務省・羽田麻里子、米捕虜研究者・徳留絹枝、POW研究会・森 広幸、小林皓志

自衛隊関係者：合田、松本、安田(女性)の各氏

取材：NHK高松、読売新聞

外務省担当者の約2時間近くの到着遅れで、午後訪問を開始しました。

1. 陸上自衛隊善通寺駐屯地内にある乃木館を視察。通常は、この館内2階を上った所に収容所の概略図、元米兵捕虜(David D. Kliever)の新聞記事が展示されていますが、米訪問者が高齢のため、自衛隊関係者が気を利かせて1階玄関のに入った所に資料が見えるように展示替えをして下さいました。
2. 陸軍墓地にある捕虜の墓石に参拝。1952年9月に横川敏雄(故人)さんによって建立されたもので、亡くなった米捕虜7名、英捕虜2名、及び豪捕虜1名の名前が墓石に刻まれています。花を手向け、ロスランスキーさんと共に手を合わせました。彼は「捕虜のことを忘れずにいてくれる日本人の優しさにふれた」と語りました。墓石の死亡者の名前が日本語(カタカナ)のみで書かれているのを見て、「日本語だけですか？」と口にされました。
3. 善通寺市立西中学校を訪問。この場所にはかつての善通寺収容所の建物がありましたが、現在はその面影はありません。ただ、グラウンドの周囲にはカイヅカイブキの木が植えてあり、68年前のものがあるかもしれません。中学校に到着すると直ぐに応接室に通され、香川雅之校長の出迎えを受けました。お茶をいただきながら30分ほど歓談しました。捕虜に関しては理解のありそうな方で、今後は生徒たちとの交流も考えていきたいとのことでした。尚、この中学校訪問は森さんの配慮で急遽実現したものです。



Marvin A. Roslansky(91) さんについて：

海兵隊に所属、軍曹。1941年12月9日グアムで捕獲されました。1942年1月善通寺へ移送(Argentina丸)。彼によると第一陣としてグアムより425人が善通寺に到着。彼は湾労働者(主に高松駅)として働いたそうです。

帰国後は中古車商を営み、退役軍人を支援するボランティア活動にも励みました。今回、捕虜と市民

の交流事業を続けている日本政府に来日を打診された時、「つらい日々を思い出したくないとちゅうちょしたが、当時を知る人間は少なくなった。これが最後の機会」と思い直したということです。「不幸な時代のことが、きちんと語り継がれていると知り、うれしくなった。帰ったら元捕虜の友人に報告したい」と穏やかに話されました。

—————次の訪問地である尾道市向島に向いました。

## 10月18日(金) 向島捕虜収容所跡

訪問者：上記4名の米関係者

同行者：羽田、徳留、小林

向島関係者：郷力尾道市副市長、杉原市会議員、和田向島支所長、宇根本校長(向島中央小学校)、他5名

取材：読売新聞、中国新聞、山陽日日新聞

午前中に米国兵捕虜のメモリアルプレートを訪問。上記の市関係者との握手・挨拶を交わしました。終戦直後に米捕虜と交流のあった地元住民(林原啓子さんの母ら)が投下物資のパラシュートの生地でシャツを縫ってあげた話などが披露されました。

宇根本校長の祖父は、西洋料理の腕を買われて収容所でコックとして働かされましたが、情報隠蔽のため帰宅は許されなかったとのことでした(時期的なことは不明)。また、向島キリスト教会のクック牧師のギター演奏による「アメージンググレース」の歌でもてなして下さいました。

このメモリアルプレートは、2011年12月に廃業・解体した向島紡績(株)の赤レンガを使って2013年4月に設置したもので、収容所で亡くなった只一人の米捕虜 Gorge B. Scott 氏を追悼して建てたものです。1944年フィリピンより能登丸で日本に輸送された捕虜の内、同年9月7日に100名の米兵捕虜が向島収容所に連れてこられ、終戦まで1年間、日立造船向島工場で強制労働をさせられました。



その後、向島中央小学校に赴き、児童たちと交流しました。最初に、校長室で歓談した後、小学1年生の授業風景を参観しました。それから、体育館では412人の全校生徒が壇上に整然と並び、訪問者を出迎えてくれました。

生徒を代表して、6年生の生田七海さんが「日本へようこそ。私たちは向島中央小学校の生徒です。本日はアメリカからはるばる来ていただき、ありがとうございます。お会いできるのを楽しみにしていました。我々は歴史の時間で、第二次大戦について学んでいます。世界平和がいつまでも続きますように、戦争と平和の歴史について勉強したいと思っています。私たち412名が『我々の未来のために』を歌います。日本とアメリカの友好が続くことを願っています」と歓迎の言葉を述べ、全員で合唱しました。美しいハーモニーが館内に響き渡りました。

Lora Cummins(87)について：

頭書の訪問者名を参照。

テキサス州アントニオ市在住。「向島では衣服をきちんと与えられるなど、夫は“向島では良い扱いを受けた”と話していました。本人が来られず残念ですが、立派なプレートに喜んでいると思います」と話しました。

また、Roslanskyさんは最後に、「当時は毎日がつらく、再び日本を訪れる日が来るとは思っていなかった。子供の歌を聞いて、時代は良い方向に変わったと感じた」と感慨深げに話しました。



(小林皓志)